

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会 第17回競技運営専門委員会 議事録（概要）

1 日 時

令和6年（2024年）7月11日（木） 14時30分～15時40分

2 場 所

滋賀県農業教育情報センター 4階 第4研修室

3 出席者

（1）委員（五十音順、敬称略）

伊勢坊 美喜、浮田 豊史、岡本 直輝、折井 重之、加藤 加織、
坂下 和子、澤 弘宣、辻 和美、八木 佐知男、山田 收彦、吉田 和弘
（委員13名中11名出席）（欠席：菅原 万智子、中村 傳一郎）

（2）事務局

事務局長、事務局員13名

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

■ 審議事項（1）

わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技 競技会会期変更（案）

※ 事務局より説明 → 原案どおり承認

【質 疑】

なし

■ 報告事項（1）

わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技 競技会場名の変更について

※ 事務局より説明

■ 報告事項（2）

わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技 練習会場の変更について

※ 事務局より説明

【質 疑】

なし

■ 報告事項（3）

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ 競技会場の変更について
※ 事務局より説明

■ 報告事項（4）

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ 主管団体名の変更について
※ 事務局より説明

【質 疑】

なし

■ 報告事項（5）

わた SHIGA 輝く国スポ 競技役員等養成事業の進捗について
※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

競技役員の不足数について、陸上競技についてはどのように考えているか。

<委員>

陸上については、補助のおかげで視察に行くなどにより、審判技術を上げてもらって主任級、審判長級の役員も育っている。また、今は大学生の意識を高めてもらって審判になるように進めている。また、過去の国体と同様に近畿圏で不足分をまかなえる協力体制ができていますので、今のところは現状の形でやっていると考えています。

<委員長>

近畿圏で審判の依頼をする場合は、その方達は宿泊するのか、毎日通われるのか

<委員>

移動距離と予算次第であるが、そのあたりは把握できていない。

<委員長>

別件で、選手の宿泊に関して、万博の影響で選手が滋賀や京都に泊まれない状況が出てきそうだという話を聞いたが、そのあたりの調整について、事務局は大変だと思うが、状況はいかがか。

<事務局>

万博の後半の期間と国スポの期間がかぶることになる。宿泊の手配等を行っているところであるが、概ね国スポでは10月1日が最も宿泊者数が多い状況。現時点で50%の協力が見込まれる状況であるが、先催祭の状況を見ても1年半前の状況はよく似た状況である。今後個別に各宿舎にあたるので、確保数はもう少し伸びていきますし、宿舎の必要数も絞り込まれてくるので、精査しながら100%に近づける努力をしているところである。県内の宿だけでは足りないため、近隣府県に協力いただくということで、具体的には福井県、三重県、岐阜県にあたっているところである。京都府にもあたっているが、観光シーズンでもあり京都の宿舎はなかなか確保が難しく、あまり

過度な期待はできない状況である。大阪府、兵庫県は万博があるので、ほぼ難しい状況である。近隣府県の協力を得ながら確保していく状況である。

<委員長>

スポーツライミングについては、今年度60名以上の養成をしていただく予定である。続いて、水球の課題についてはどうか。

<委員>

現在55名の不足。水泳全体では競技役員合計約470名の配置となっており、その内約390名の確保はできている。水泳の場合、各種目の開催日が違うので、水泳連盟390名で、調整・対応可能であり心配はしていない。

<委員長>

軟式野球については、養成が難しそうという報告であったが、達成はできそうか。

<事務局>

確認したところ、そもそも人数が不足しており、これ以上の養成は難しいという回答であった。そのため、近隣府県への派遣依頼や運営面で補うとのこと。

<委員長>

ソフトボールについてはどうか。

<事務局>

軟式野球と同様、人数不足であり、これ以上の養成は難しいという回答であった。そのため、近隣府県への派遣依頼で対応すると伺っている。

■ 報告事項（6）

日本スポーツ協会国民スポーツ大会委員会での決定事項について

※ 事務局より説明

【質 疑】

<委員長>

記録情報処理システムについては、全競技種目を集めた上でのものか。

<事務局>

各競技会においては、個別に競技記録の集計をするが、それをとりまとめ総合成績を出すためのシステム。

<委員長>

各競技会においてもシステム業者を入れている例はあると思うが、その場合は、こちらで扱わないで、競技団体等で業者指定をして進めていくことになるのか。

<事務局>

各競技会においては、競技団体や市町で記録システムを選定され、それぞれにおいて成績発表や広報をしている。各競技会の集計がこちらの本部に送られてきて、当システムにより総合成績を出すということになる。

■ その他

わた SHIGA 輝く国スポ 競技別リハーサル大会について

※ 事務局より説明

<事務局>

5月から、なぎなた競技を皮切りに、競技別リハーサル大会が県内各地で開催されている。既に終了した競技やこれからの競技と状況は様々であるが、開催準備、運営において感じられている意見などを共有できればと考え、本委員会の議題とした。

<岡本委員長>

まず、既に終了している柔道から状況報告をお願いしたい。

<委員>

会場の使い方に関して、大会役員の各控室については国スポ本番としての役員控室想定が使われ方がしていなかったのも、シミュレーションがもっと必要と思われる場面があった。リハーサル大会なので、もっといろいろ試してみる方が、本大会に向けよりレベルの高い運営ができるのではないかと感じた。

ボランティアについて、市内の地域の方がたくさん参加していただいたが、何度注意しても会場内を色紙をもって有名選手にサインを求めに行く行為が見られ、あまりボランティアの役割を理解されていないのではないかとと思われる場面が多々あった。

ボランティアの各役割とどこに何人必要かということを事前にシミュレーションして配置していただいて、機能的に動けるようにした方がよいと思った。今回、ボランティアの確保が最優先だったことから、この点は反省点であると思う。

市担当者が非常によく気遣って動いてくださった。現場での準備、運営の段階でいろいろ相談すると、すぐ対応してくださった。このようなリハーサル大会の時にこそ、いろいろな場面で市の方々とコミュニケーションをとる良い機会であると感じた。

選手とのやり取りの中で、宿泊の問題が出てきた。田舎なので駅から会場までの距離であったり、宿泊先の確保が難しく、競技会場からかなり遠かったりまちまちで、本番に向けてそのあたりがもう少し円滑にできると良いと感じた。

<委員長>

続けてサッカーの準備状況はどうか。

<委員>

なかなか進んでいない状況である。競技は18日から5日間ということで、まず、1点目は幹事市が守山市であるが、監督会議やレセプションの行事を開催できる会場が守山市内にないため、大津市で開催する。同じことが本大会でも起こりうるということがわかりかけてきたので、動き始めている。

2点目は本来であれば、守山市、大津市、東近江市の3市で開催であったのが、会場確保の都合で甲賀市にも協力していただいているが、甲賀市との調整が直接できず、守山市、大津市を通じてでないといけない。甲賀市の施設を借りているので、競技団体が施設と直接調整がしたくてもできない状況である。

3点目は、初日が8会場で開催となるので、約200名弱の役員が必要であるが、その人選がなかなか埋まっていけないのが実状である。リハーサル大会は試合が進めば、試

合数も会場数もどんどん減っていくが、本大会はリハーサル大会のように順番に減っていくことはない。

<委員長>

次に、バレーボールの準備の状況はどうか。

<委員>

6人制のインドアについては、何度か3市と合同で打ち合わせをしている。リハーサル大会は1会場でも開催可能ではあるが、会場を分けて3会場で開催することになっている。

本大会に向けて一番困っているのは、役員の配置である。土日の役員は手配できるが、平日の役員がなかなか集まらない。平日は一般企業の方は出ることは難しいので、中学校や高校の先生方をお願いしているところである。職専免が使えるので公休がとれるということであるが、各学校の事情もいろいろあって、やりにくいと聞いている。3市の準備の動きが若干違うので、なんとか足並みをそろえてやっていきたいと思っている。

<委員長>

中体連、高体連の先生方が競技団体の運営を担っている競技があると思うが、リハーサル大会への協力について、県から市町へ情報共有されているのか。

<事務局>

大きくは県立学校と市町立の学校がある。県立学校については、県教育委員会より各学校へ職専免の扱いとか、選手強化や競技運営に携わった教員のサービスの扱いについて通知を出している。また、市町については、まず、市町の教育委員会に通知を出して、教育委員会から各学校へ通知されていると思っている。私学の学校については、なかなか同様には言いにくい部分があるが、半世紀に一度のことなので、県のやり方に準じた協力をお願いしているところである。

<岡本委員長>

バスケットボールの複数市町開催の準備は進んでいるのか。リハーサル大会は、それぞれが1会場で進められているので、少し心配している。

<委員>

リハーサル大会は、それぞれ別の日に設定されているので、3会場一気にやるわけではない点で本番と大きな違いがある。競技役員も10月開催、12月開催、1月開催とそれぞれ全部に行くが、本番当日とは全く違う。実際に3会場に分かれて本当にできるかどうか、かなり厳しいというのが現状である。会場市についても、それぞれの開催はやっていただけだが、一緒になるとなかなか難しい。この点がバスケットボールのリハーサル大会の課題であると思っている。競技役員についても中学校の先生とかをおさえてはいるが、審判資格を持つ人は取り合いの状況である。人が十分ではないのが現状なので、リハーサル大会を通じてもっと人を確保していく必要があると思っている。

<委員長>

マネジメントについてはどうか。実際に管理運営する要員の役割分担とかは決めているのか。

<委員>

バスケットボール協会において、各専門の長がかなり会議を開催されているので、それぞれの長は動いているとは思っているが、人によって温度差もあるので、少し心配ではある。

<委員長>

マネジメントについては、中体連、高体連の先生方のご協力を得なければ進まないと思われるが、中体連としてはどのように検討されているでしょうか。

<委員>

来年8月に近畿大会が開催予定であるが、近畿中体連で使う会場が国スポ練習会場と重なっている会場がたくさんあるので、今後調整をしていく必要があると考えている。

<委員長>

高体連はどのように検討されているでしょうか。

<委員>

高体連を通じて各専門部や学校へ通知を出してやり取りしているわけではないので、実際の現場の反応等は全くわからない状況であり、我々の方こそ教えていただきたい。

<委員長>

水泳はどうか。

<委員>

競泳については、8月9日からリハーサル大会であるが、実は施設ができたのが8月1日であり、そこから一週間でリハーサル大会をやる日程になっており、そこに非常に不安を感じているのが一点。

リハーサル大会は全国国公立大学選手権で、学連を主体とした大会であり、学連とは綿密に打ち合わせをして、役員も100名程度はいる予定である。学連のやり方でやっていくということで、1日から7日までの間でプールを使って何度か講習会を開催しながらやっていくが、かなり不安はある。

アーティスティックと飛込については、リハーサル大会としては行わないが、飛込については、全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳大会を招致しており、日本選手権も開催する予定である。アーティスティックスイミングについては、来年JOCの大会を8月にリハーサル大会を想定して開催する予定で、日本水泳連盟と話をしている。

<委員長>

陸上競技の状況はどうか。

<委員>

審判等の役員については順調に進んでいる。陸上競技協会と彦根市がリハーサル大会や本番について手を連携しながらいろいろと取り組んでいるところである。一方で、競技場は仕上がっているが、まだその周辺の設備が全く仕上がっていない。現状、選手がサブトラックに移動する際に、けがをしそうなガタガタ道を通らなければならない状況のままである。今年リハーサル大会として8月31日と9月1日に近畿選手権を開

催するが、まだ工事車両が出入りしていて使えないところを、リハーサル大会ということで、特別に使って人の動線等を検証したいと思っている。未だにサブトラックと競技場の間の道も完成しておらず、競技場に入るゲートも工事中で閉鎖されたままであり、観客をどのように誘導するのか、人の流れが全く読めないままでリハーサル大会が終わってしまう状況。競技場内は大丈夫であるが、周辺施設での動線などのいろいろな課題の検証ができない状態で困っている。この場で言っても仕方ないことではあるが、是非とも工事を早く終わらせていただきたいのが強い願いである。

<事務局>

ご懸念の点は我々も、現場を見て承知している。工事を受け持つ部署とは定期的に意見交換をする場があるので、今日いただいた意見は率直に伝えて、一刻も早く工事を完了するよう進めてもらうことと、リハーサル大会が安全に進められるよう配慮いただくことも含めて相談してまいりたいと思っている。

<委員長>

水泳の動線について、以前、バスにするかどうかという話があったが、その点はどうなったか。

<委員>

選手控室は会場内または会場近くで確保するのが通常であるが、施設のスペースの問題で仮設施設も置けない事情から、草津市の体育館、YMIT アリーナを選手控室として使って、プールとの間をシャトルバスで繋ぐことについて、草津市から提案を受けている。我々としては最後まで競技会場の近くに選手控室を設けてほしいと要望しつつ、日本水泳連盟と協議しながら進めたいと思っている。今回のリハーサル大会では、収容人数的に体育館を使う必要はないが、今後、全国規模の大会を幾つか予定されているので、その中で試してみたいと思っている。

<委員長>

全体を通して何かご意見あるでしょうか。

<委員>

障スポ大会についても競技役員の皆様には審判等いろいろご協力いただかなければならない。国スポに続けてとなり大変であるが、障スポ大会につきましてもどうかよろしくお願ひしたい。

<委員>

1点お願いであるが、以前お願いした会期前競技について、日程などを資料等に表示してもらっており、周知もだいぶできてきていると思っているが、選手ファーストの観点で考えると、選手が滋賀県に入ってきた時に、通常カウントダウンボードに国スポまで後〇〇日と表示されているかと思うが、それを選手が見たときに、少し重い気持ちになろうかと思われる。できれば、5日前くらいから、会期前競技の初日をゼロ日とするような設定にして表示いただけたらありがたいと思っている。一斉には無理かもしれないが、開催地や開催地の近隣、または、最寄り駅にあるカウントダウンボードをそのような表示をしていただけたらありがたい。

<委員長>

県スポーツ協会として何かあるでしょうか。

<副委員長>

日頃より、強化ならびに運営に関してご尽力いただき感謝申し上げます。現在、国スポの近畿ブロックがはじまっており、どんどん結果が出てきている。滋賀国スポに向けて少しでも弾みがついていければと思っているので、今後ともご協力よろしくお願ひしたい。

以 上